

病気について

- ① 子どもの健康状態に異常があった(昨夜発熱があった、嘔吐、下痢の症状がある等)場合や座薬を使用した場合は、必ず登園時に担任に伝えるか、ノートでお知らせ下さい。
- ② 園において、体調が悪い場合は緊急連絡先に電話で連絡いたしますので、お迎えをお願いいたします。
また、**子どもの様子がいつもと違う時(下痢・嘔吐等)も、お知らせするために電話連絡いたします。**
- ③ 本人及び家族が感染症にかかっているときは、連絡してください。(下記表参照)
特に保育園は集団生活の場でありますので感染症は格別の注意が必要です。
早めに医師の判断と治療をうけ、その診断によって登園してください。
- ④ 園内で感染症が流行した時は、随時、メール・掲示板でお知らせいたします。

感染症の登園基準 主治医の診断を受けてから登園して下さい

| | 病名 | 感染しやすい期間 | 登園のめやす |
|-------------|-------------------------|--|---|
| 第 2 種 | 麻疹(はしか) | 発症1日前から発しん出現後の4日後まで | 解熱後3日を経過してから |
| | インフルエンザ | 発症24時間前から後3日間が最も多く、通常7日以内に減る | 発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで |
| | 風しん | 発しん出現の数日前から5日間くらい | 発しんが消失してから |
| | 水痘(水ぼうそう) | 発しん出現2日前から痂皮形成まで | すべての発しんが痂皮化してから |
| | 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) | 発症2日前から耳下腺腫脹後5日 | 耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫脹が発症した後5日を経過しかつ全身状態が良好になるまで |
| | 結核 | | 病状により医師において感染の恐れがないと認めるまで |
| | 咽頭結膜熱・アデノウイルス | 発熱・充血など症状が出現した数日間 | 主な症状が消え2日経過してから |
| | 流行性角結膜炎 | 充血・眼脂など症状が出現した数日間 | 感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから |
| 第 3 種 | 百日咳 | 抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで | 特有の咳が消失し、全身状態が良好であること(抗菌薬を決められた期間服用する。5日間服用後は医師の指示に従う) |
| | 腸管出血性大腸菌感染症 (O157など) | | 症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの |
| そ の 他 | 溶連菌感染症 | 適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1~2日間 | 抗菌薬内服後24時間~48時間経過していること ただし治療の継続は必要 |
| | マイコプラズマ肺炎 | 適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間 | 発熱や激しい咳が治まっていること (症状が改善し全身状態がよいこと) |
| | 手足口病 | 手足や口腔内に水痘・潰瘍が発症した数日間 | 発熱や口腔内の水痘・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること |
| | 伝染性紅斑(りんご病) | 発しん出現前の1週間 | 全身状態が良いこと |
| | 感染性胃腸炎 (ノロ、ロタなど) | 症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数日間ウイルスを排泄しているので注意が必要) | 嘔吐・下痢などの症状が治まり、普段の食事がとれること |
| 他 | ヘルパンギーナ | 急性期の数日間(便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要) | 発熱や口腔内の水痘・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること |
| | RSウイルス | 呼吸器症状のある間 | 呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと |
| | 帯状疱疹(ヘルペス) | 水疱を形成している間 | 水痘と同様 |
| | 突発性発しん | | 解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと |
| | 伝染性膿疱しん(とびひ) | 湿潤な発しんがある間 | 皮しんが乾燥しているか、湿潤部位が覆える程度のものであること(皮しん・痂皮が湿潤している間は接触による感染力が認められる) |
| | 伝染性軟属腫(水いぼ) | | 掻きこわし傷から、滲出液が出ているときは被覆すること |
| | 頭じらみ症 | 発症から駆除開始し数日間 | 駆除を開始していること |